

神山町の生活支援体制整備事業

みんなて どなんぞ しちやげんて



特集

福祉って、何だろう？

Vol.2

福祉って、何だろう？

「福祉」とは、幸福(しあわせ)のことです。これは、神山町地域福祉計画の中に書かれている言葉です。前号では、たくさんの「声にならない声」があることをお伝えしました。どの声にも共通していたのは、最期まで神山で自分らしく暮らしたいという気持ち。ここでは、すでに開始されているサービス(移動・買い物・草刈り・ゴミ出し)とともに、実は暮らしの中で福祉につながっている行動や声かけを紹介します。

「最期まで神山でいたい」
その想いを叶えるために、一人ひとりにできることがあります。

おはよう。元気にしょんで？

足の調子もよくなってきたよ

サロンで『いきいき百歳体操』をがんばっとるよ！

みんなで元気におろう

買い物

移動販売や配食サービスがあるけん、助かるなあ

さいさい市で友達と何十年ぶりに再会できて嬉しかった

助かるなあ

ゴミ出し

ついでに持って行ってあげるよ

移動

家まで迎えに来てくれるけん移動がしやすくなった

まちのクルマ Let'sが走り出した！

草刈り

草刈りサービスがあるけん、助かる。いろんな世代の人が来てくれてうれしい

どちらいか

野菜のつくり方を教えてくれてありがとう

困ったことがあったらいつでも言うてよ

ありがとう

じいちゃんの野菜はおいしい！

草刈り技術も身につけてきたよ

『みんなでどなんぞしちやげんで ～はじめまして、ふくし～』を開催して

地域の中にはたくさんの支え合いがあります。その一方で、若い世代から「何かできることないかなと思うけど、自分に何ができるのか分からない」という声もたくさん届きました。そこで、昨年11月に福祉について話し合う講座を開きました。参加してくれたのは20～60代の男女17名。参加者のみなさんに感想をお聞きしました。



後藤 涼介さん (20代)

これまで僕は福祉に関わる機会がなかったのですが、自分と同世代の人が福祉の仕事に向き合っていることや、心を傾けている人の存在を知りました。



松久保 訓一さん
(60代)

集落支援員として働いてみて、地域の高齢化の状況は深刻です。必要な支援につながる手がかりとなるような事例が聞けたらと思っていますので、次回も参加者同士で意見交換をしたいと思います。

溝田 千絵さん (30代)

特別なことでなく、日常のごく一部の手助けがあるだけで生活は変わる。時には助けられ、時には助けることができる、そんな関係を構築していきたいと思います。



笹川 大輔さん (30代)

町として何かを決める時に、行政と民間と一緒に考えていくことが大事だと思っています。今回は、こうやって役場の方と町民と一緒に集まって考える場があってよかったです。



この講座に参加して、若い方の視点や発想に触れることができ、大変勉強になりました。また、多くの若い人たちが神山町のことをこんなにも熱心に、そして一生懸命に考えてくれていることに感動しました。

協議体委員
西崎 久美子さん



【あとがき】

「福祉って何だろう?」「一体何をすればいいんだろう?」と思われる方もいらっしゃると思いますが、決して難しいことではありません。普段何気なくしている挨拶や、誰かの困っていることにできる範囲で関わることがすでに「福祉」であることを、この冊子を通して少しでも理解していただけたらと思います。この冊子が「何をすればいいんだろう?」から「何から一緒にやっっていこうか!」へと変わるきっかけになれば幸いです。

看護師: 下窪 美香(神山町地域包括支援センター)

